

断片を一つに集積した書誌を作ることは、対象とするあまりにも膨大な母集団を前にした時、実現可能性のない夢想にすぎないもののように思われよう。

だが、国立国会図書館デジタル化コレクションの出現は、そうした書誌の可能性をかいみせているように思われた。

先にも述べた通り、単年度会計という時間的制約の中で、大人数が機械的に作業を行って作り上げられたデータであり、到底満足出来る物ではないかもしれない。しかし、確かにそれは取っ掛かりにはなるのである。

ゼロからスタートするのではなく、このデータをベースに欠落した情報を補っていくことで、更に利便性を持った書誌を作っていく。そうした機会が提示されているとみるべきではあるまい。

そこで編者が選択したのがアンケート記事をターゲットとした書誌である。年代を区切り、「葉書回答」「諸家回答」「名士回答」といったキーワードで検索される記事に限定して細目をデータ化していくという手順。これならば有限の時間内に完結できるという見通しが立つ。

年代としては、戦時期に絞り、太平洋戦争期（1941～1945年）と、その直前の昭和10年代（1936～1940年）を、最初の試みの舞台とすることにした。

戦争や、時々の事件、体制に関する言説は、これまでも様々な記事から抽出され、分析されてきた。そこから、その時代の心性が読解されてきたわけであるが、それらについて直接的な回答が、「二・二六事件の当時」「日独防共協定に対する感想」「日米開戦をきいた時どう感じたか」「昨年の十二月八日は何處で宣戦を……」「空襲と古美術の保護」等々、アンケートの形で残されているのである。

雑誌上に公表するということから、当然読者を意識したバイアスというものは存在するが、それはアンケート以外の一般の記事論説についても同様であり、建前の間には、本音が透けて見え隠れしている。

また、発された問い合わせもまた、その時代、何が重要視されたかを雄弁に物語っている。

この試みが有用なものと認められれば、さらにそれ以前の年代についても同様の書誌作成をすすめてみたい。

（藤元直樹 解題（抄））

今日、アンケート調査というとイエス・ノーか選択肢の回答を計量的に分析した「世論調査」をイメージする人が多い。しかも、そうしたサンプリングによる科学的世論調査が、アメリカ占領下に戦後開始されたという誤った言説がいまなお横行している（戦前、戦中の世論調査については拙著『輿論と世論—日本型民意の系譜学』新潮選書の第二章で論じた）。ランダム・サンプリングで一般国民を対象とする世論調査以前にも、「はがき回答アンケート調査」が明治期から存在したことは知られている。「輿論調査」や「諸家回答」と呼ばれた雑誌の特集記事であり、著名人がさまざまな質問に自由回答を行っている。そうした記述は文化史的にもメディア史的にも貴重な史料だが、これまで十分に注目してきたとは言えない。本企画はそうした貴重な文献に光を当てた画期的な労作である。おそらく、この『戦時下雑誌アンケート索引』の刊行により、著名人の全集や著作集には多くの追記が必要となるはずである。たとえば、『岩波茂雄文集』全三巻（岩波書店、2017年）には岩波茂雄が『実業之世界』1941年新年号の「はがき郵便—私の好きな人・嫌いな人」に応えた文章が掲載されていない。この回答の存在が確認できていれば、同号に岩波が寄稿した「国民元気の振興は先づ、正しき言論の自由から」が文集から洩れることはなかったはずである。戦後は「右翼ジャーナリスト」として名高い野依秀市の発行する『実業之世界』への寄稿文のため敬遠されたのかもしれないが、むしろ本書のような便利な索引がなかったために見落とされたものだろう（詳しくは拙稿「信州風樹文庫の旅から—岩波茂雄文集』を読む』『図書』2017年6月号を参照）。いずれにせよ、本書が戦前言論空間の実証的研究に大きく寄与することを確信している。

佐藤 卓己（さとうたくみ／京都大学大学院教授・メディア史）

編者より読者へ

モダン日本四月特別号

全集や著作集に多くの追記を促す

映画の印象 中村武雄夫

筆 隋

木村太郎氏の講義されたジヨルジ・ジニアメルの「犠牲」は、日本語で讀むジ・アルとし、最近最も深い感銘を受けたものゝ一つです。されば、ヨーロッパ大戦における野戰病院の情状を描いたものですが、人間性の底深く、鋭くあたるとか、親切なメスを揮つた作品であります。譯文も、すぐれた日本語になつてゐます。日本の中年者には、愛讀されなければならぬものと信じます。

野久作 梅抄が一番深く印象に残つて居ります。讀ませよう讀ませよとする此のせわしない世の中には、静かに自分一人の趣味を抱いて睡むたがつてゐる才人の氣持がシックリと受取られました。藤本尚則氏の「頭山満翁傳」と、最近と云つても随分色々と讀みましたが、小野賣一郎氏の「佛魔抄」が一番深い印象に残つて居ります。讀ませよう讀ませよと云つてゐます。日本の中年者には、愛讀されなければならぬものと信じます。

柳鳴十 夢野久作

木村太郎氏の講義されたジヨルジ・ジニアメルの「犠牲」は、日本語で讀むジ・アルとし、最近最も深い感銘を受けたものゝ一つです。されば、ヨーロッパ大戦における野戰病院の情状を描いたものですが、人間性の底深く、鋭くあたるとか、親切なメスを揮つた作品であります。譯文も、すぐれた日本語になつてゐます。日本の中年者には、愛讀されなければならぬものと信じます。

川冬彦／浅廣六朗（21）

（136）清沢渕／中河與一（137）村山知義／辰野九紫／沖野岩三郎／岡本綺堂／青野季吉（138）支谷川伸／伊庭孝／佐藤春夫／嶋中雄作（139）白井喬二／大森洪太

「現代の雑誌へ何を望まるか—主としてその編輯方針に関して」『明朗』1巻1号（4月1日）□

（140）上野知行／木村太郎（141）高橋英輔

「推薦図書館」『モダン日本』7巻4号（4月1日）■

（56）上岐善蔵／夢野久作（57）椋鳴十（58）荻原井泉水／平田禎木（59）岡本かの子

「一九三六年度推奨名映画」『モダン日本』7巻4号（4月1日）■

（84）水町青磁／滋野辰彦／大久保忠素／牧葉十三郎／飯島正／小島浩／小川進康／如月敏／飯田心美（86）小野金次郎／岡田吉／軽部清子／津村秀夫（87）大黒東洋土／鈴木重二郎

「記憶に残る名映画」『モダン日本』7巻4号（4月1日）■

（87）林莢美子／浅原六郎（88）徳山聰／池田義信／栗島すみ子／井伏鱒二／向井源吉（89）堀口大学（90）中河與一／村田実／水の江瀧子／青野季吉（91）小柴虫太郎（92）森律子（118）長谷川時雨／兼常清佐／伊庭孝／オリエ津阪（119）平野零児（124）如月敏／サトウ・ハチロー／松井翠喜／長谷川伸（125）坪内士行／北村小松／北村静江（126）堀口大学／有島生馬

「私のハンドバツク」『モダン日本』7巻4号（4月1日）■

（107）伏見信子／オリエ津阪／姫宮接子／神田千鶴子／堤真佐子／桂珠子

「青春のころわが愛せし作品と主人公」『若草』12巻4号（4月1日）■

（94）近松秋江／細田源吉／萩原朔太郎／上司小剣／加藤武雄／浅原六郎（95）新居格／長谷川伸／浜本浩／岡田三郎／水木京太／河上徹太郎／堀口

戦前言論空間の実証的研究に大きく寄与